

STUDENT EXCHANGE NEWS



近江兄弟社中学・高等学校 国際交流委員会・留学生センターニュース

ISSUED BY THE INTERNATIONAL EXCHANGE COMMITTEE, OMI BROTHERHOOD SR. & JR. HIGH SCHOOLS

ただ今留学中

オーストラリアのクリスマス

111 伏木彩澄菜
姉妹校中期留学

留学先：Citipointe Christian College（オーストラリア）

期間：2016/7/16 ～ 2017/6/24



一年で一番大きな行事クリスマスをおーストラリアで過ごしました。オーストラリアのクリスマスは日本と全然違います。まず、日本はイエスキリストの誕生をあまり祝わずただのパーティになっていますが、オーストラリアは誕生を祝いつつパーティもします。そのパーティでも日本とは違うところがいくつもありました。

一つ目はクリスマスプレゼントです。日本では子供にサンタクロースからクリスマスプレゼントをもらうという設定ですが、オーストラリアは子供も大人もクリスマスプレゼントをもらいます。そして、それはサンタクロースからではなく家族や友人からたくさんもらいます。では、サンタクロースは何をするかというと、大きな靴下にお菓子やものをたくさん詰めて寝ている間にくれます。私はクリスマスでお菓子などがいっぱい入った靴下をもらうのは初めてだったし、本当にテレビで見たことのあるようなクリスマスだと驚きました。私はホストシスターにオーストラリアではまだ流行っていないお

菓子リュックとその中に似顔絵（事前に親に写真を送り似顔絵屋さんで書いてもらいました）を詰めてプレゼントをしました。とても喜んでくれたのでこちらまで嬉しくなりました。



二つ目はオーストラリアの子供たちはサンタクロースを信じている率が高いことです。私のホストシスターは先日、小学校を卒業しましたが、卒業する前に学校の先生からサンタクロースはいないという事実を知らされたそうです。そして、私のホストシスターはもうサンタクロースは信じないと言っていました。12歳まで信じていたのには驚きましたし、オーストラリアの子供たちはピュアだと思いました。私のホストシスターの友達はまだ信じているそうです。

三つ目はクリスマスパーティでの料理です。クリスマス当日はホストファミリーの友達の親に招待され、オーストラリアのクリスマスを過ごし、26日、ボクシングデーはホストファミリーがイギリス人なので、イギリススタイルのクリスマスをお過ごししました。オーストラリアスタイルのクリスマスはほとんどがおしゃべりの時間についていくのが大変でした。

食後のデザートは日本では見たことないクリスマスケーキを食べました。ケーキの中にはたくさんのフルーツが入っていてカスタードと一緒に食べました。パブロバというニュージーランド発祥のケーキもオーストラリアではよく食

べられます。イギリススタイルのクリスマスはターキーの丸焼きを食べました。ターキーと一緒に食べるソースがたくさんあったのですが、一番驚いたのクランベリージャムです。甘いジャムとターキーと一緒に食べるのは少し違和感はありましたが意外にも美味しかったです。

ここには書ききれないほどの日本のクリスマスとオーストラリアのクリスマスの違いがあり、いい経験になりました。もうすぐ新しい年になります。私と私のホストファミリーはインディアンパーティをするようです。オーストラリアでインディアンは不思議ですが楽しみたいと思います。

(2016/12/29 受信)

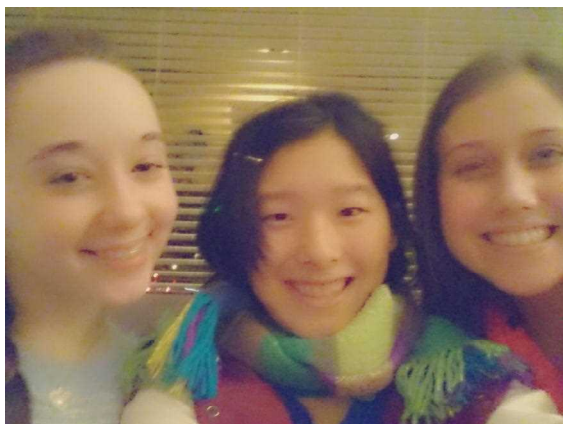


180度変わった生活

111 岩田 圭果
姉妹校留学

留学先：Grand Rapids Christian High School (アメリカ)

期間：2016/8/5 ~ 2017/3/25



こちらに来て5か月が経ちました。ミシガン州は一月になるとマイナス10度から15度になることが度々あります。しかし、家の中は日本にいた時よりも暖かいです。

冬休み前に、年に2回の定期考査らしきテストがありました。こちらの成績は日頃の授業(態度、課題など)が7割、テストが3割の比率になっていて日本の学校とはほぼ真逆です。ですから、授業中発言する人も多いし、休み時間に先生に聞きに行く人も多いです。それに、先生と生徒の距離がとても近いです。気軽に挨拶を交わして、時々友達の間関係のように見えることもあります。

日本とアメリカの学校の違いを聞かれることがあります。私はいつも、「全部違う!」と答えます。授業の時間、教室、授業の制度、先生との関係、昼食、放課後、部活など。最近制服を指定する高校も増えていますが、私の学校では未だに私服で過ごしています。

話は変わりますが、冬休みから事情があってホストファミリーが変わることになり、新しい生活が始まりました。3人姉妹のホストシスターと、ホストマザー、ホストファザー合わせて5人家族です。前のホストファミリーと今のホストファミリーの生活スタイルは全くと言っていいほど逆で、本当に面白いです。

新しいホストファミリーはとても規則的で活発で、毎日朝5時に起きて運動をしたり、みんなでプールに行ったりします。さらに、キリスト教をととても深く信仰している家族なので、毎日、聖書朗読の時間があります。ホストシスターたちは嫌々してるように見えますが、ホストファザーはいつも嬉しそうです。私も、中学の時から聖書を学校で読んでいたので、日本語訳がなくても大体内容が分かって自分も参加できているようで楽しいです。

日曜日には教会に朝と夕、2回行きます。これには私も驚きました。しかも、前のホストファミリーと行っていた教会とは全く違います。前の教会はドラムやギターで楽しく讃美歌を歌っていましたが、今の教会はパイプオルガンに合わせて真剣に歌います。前の教会は牧師が話している間に笑いがありましたが、今の教会は牧師が話している間は無言です。前の教会は黒人も白人もおなじ割合ほどでしたが、今の教会で黒人は全く見かけません。本当にそれぞれの教会で違いがあって面白いと思います。また、教会に行く日曜日は携帯を使わないルールがあります。教会から帰ったら私が日本食を作ります。ホストファミリーはとても喜んでくれて、さらに日本に興味を持ってくれるようになりました。

母国に興味を持ってもらえることは自分に興味を持ってもらえることでもあって、とても幸せな気分になります。

こちらで過ごした初めてのクリスマスにはキャロリングをしました。近所にクッキーを配りながらクリスマスソングを歌ったり、ホストシスターたちとクリスマスソングを歌いながらゲームをしたりしました。

クリスマス当日には、まだその時4日しか新しいホストファミリーと一緒にいなかったのにホストシスターたちと同じようにクリスマスプレゼントをくれました。(小さなものも含めて

20 個ほど)。

家の外に飾るクリスマスのライトがとても可愛くて、音楽が流れていたりサンタが動いたりとてもハイテクなものもありました。

大晦日には、ホストシスターの友達のパーティーに連れていってもらいました。こちらでは大晦日の夜は友達と過ごすことが多いみたいです。初めて会ったのにもかかわらず、みんな、日本について興味を持ってくれたりして話がとても盛り上がりました。こちらに来て初めての

ガールズトークだったので、12 時を過ぎてからもずっとおしゃべりしていました。

2 軒のホストファミリーにステイさせてもらうことは2つの違った生活を経験できることであり、本当に貴重な体験をさせてもらっていると感じます。

残り3か月もありませんが、慣れてきた英語を使ってまた新しいことをしていきます。

(2017/01/10 受信)

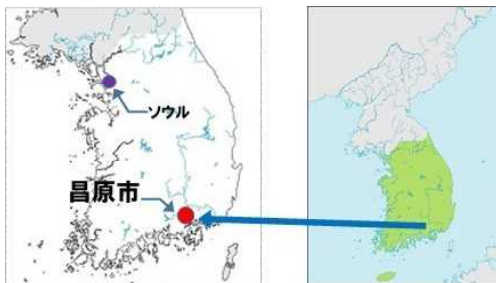
受け入れ予定

韓国の姉妹校昌原南中學校高等学校から 一泊ホームステイ



今年もまた、韓国の姉妹校の一行が、学園を訪問します。生徒 42 名（男子 36 名、女子 6 名）と、引率教員 4 名が参加します。今年、1 月 20 日金曜日の夕方の到着です。到着後、礼拝堂で簡単な歓迎会を行い、その後は、ホームステイです。1 月 21 日土曜日は、ホストファミリーと一緒に過ごしてもらいます。中には、グループで活動するホストファミリーもいるようです。その日の午後 4 時 10 分に京都駅に集合し、お別れする予定です。姉妹校の一行は、その後、金沢へ移動し、一泊し、さらに富山に一泊、金沢でもう一泊し、次は姫路へ行きます。姫路城見学のあとは、大阪へもどり、1 月 25 日水曜日に一日 USJ を見学します。1 月 26 日木曜日に帰国します。

昌原南中高は、釜山市から西方約 50 キロメ



ートルの所にある昌原（チャンウォン）市にあります。昌原市は人口 108 万人の工業都市で、年間通して気候は暖かく、雪はめったに降りません。市内はとても清潔で、美しい町です。

学校は、韓国長老派教会の信徒によって設立されたキリスト教主義学校です。中学校(男女共学)は、1 学年 8 クラス、高校(男子)は 1 学年 10 クラス、合計約 3,000 名の生徒がキリスト教を基本にした全人教育をモットーに学んでいます。教職員は中高全体で 120 名。同校が、現在力を入れているのは、国際交流とコンピュータなどの情報教育。語学については、英語はもちろんのこと、第 2 外国語として、ドイツ語と中国語を課しています。日本語の学習をする生徒もいます。ヴォーリズ学園と同じ、「地の塩・世の光」(The Salt of the Earth, The Light of the World) が学校訓です。

近江兄弟社高等学校 2 年生は、毎年、海外研修旅行で訪問し、交流を続けています。



昨年の歓迎会より

留学生クラウディアの揮毫による題字



AFS の年間留学プログラムで、4 月より本校に滞在している I11 クラウディア (Claudia Suarez Urena) さん (コスタリカ出身) が書いた文字が、朝日新聞滋賀版の特集記事の題字に使われました。

そのコラムは、滋賀県に在住し活躍する外国人にインタビューをして紹介するものです。今年 1 月 1 日付けの朝日新聞にクラウディアさんが題字とともに紹介されました。



書で気持ち穏やかに

新年企画「おうみにつどう」の題字は、中米・コスタリカ出身の留学生で、近江兄弟社高校 (近江八幡市) 書道部のクラウディア・バーレンテイナース・アレブローウレナさん(18)に書いてもらった。

20 年ほど前に来日したことがあるおじから、人々が礼儀正しく、文化が魅力的と聞いて育った。留学して言葉や生活を学びたい、と日本に着いたのは 2016 年 3 月。約束の時間ぴったりにものごが始まることや交通の便利さに感心し、日本の好きな点がいくつもできた。特に食べ物は何でもおいしく、あんこが一番のお気に入りになったという。

習字に初挑戦したのは、留学生向けの授業。「日本の文字を知りながらアートができる」と、書道部に入部し、週 3 回筆を握る。故郷から遠く離れ、生活にストレスを感じることもあるが、書いている間は穏やかな気持ちになれるという。

題字の作品を書き上げたときは、来日時には全く知らなかったひらがなを読み、書けることに「ちよつと誇らしい気分だった」とはにかむ。

この 2 月には留学を終え、故郷に戻る。「帰るまでに友達と出かけて色々なことをしゃべりたいし、歴史など学びたいことがまだまだたくさんある。また日本に戻ってきたい」。大学では、政治学を学ぶ予定。子どもや女性を助け、国際社会で活躍するのが夢だ。

朝日新聞 2017 年 1 月 1 日 (日)
(杉浦奈実)

留学生アルバムより

近江兄弟社小学校で
オリジナル紙芝居を披露 (12/13)



ひかり園の
餅つき大会参加 (1/13)

